

徳島県 高校入試情報

令和7年度徳島県入試の全体傾向

- 大問構成、問題数について
- 大問数：地2・歴2・公1・地歴公1の計6問（昨年と同じ）
- 小問数：36問（昨年より1問増）
- 文章記述問題は昨年と同じ6問
- 出題傾向について
- 基本的な知識を問う問題がほとんどだが、地理分野では「スマート農業」「モデルシフト」について資料を読み取って考察する問題が出されている。
- 歴史分野では並べ替え問題が2問出題されている。
- 各分野ともまんべんなく広範囲から出題されている。

★徳島県の入試は、『社会の新研究』でバッチリ！

文章記述問題の出題

・例年、資料から読み取れること・考えられることを記述させる問題が出題されているため、資料の読み取り対策と記述対策の両方が必要。



新研究で対策！

- 巻頭の「社会のキホン～記述問題の答え方～」(p. 2～3)と、「文章記述問題はこわくない！」(p. 184～187)で記述問題のポイントがつかめます。
- 「思考力・判断力・表現力を問う活用問題」(p. 194～197)では、複数の資料を用いた問題など、思考力を必要とする問題が練習できます。

歴史の時代関係の問題の出題

・例年、歴史でおもなできごとの並べかえ問題が出題されているため、テーマごとに歴史の流れをおさえる対策が有効。



新研究で対策！

- 「特集 流れでみる歴史」(p. 114～119)で、同時代のできごとを整理。「ふりかえりチェック 歴史年表編」(p. 120～121)で、すべての時代の流れをつかむことができます。
- 「並べかえ問題に強くなるう！」(p. 190～191)では最新の入試問題で並べかえ問題がしっかり練習できます。

★新研究で出題した徳島県の入試問題(令和7年度)

◆p.85 大問1 ◆p.97 大問2

徳島県の入試傾向に完全対応！
新しい『社会の新研究』をお薦めします！



★徳島県入試出題内容別・形式別傾向分析(過去4年間)

単元名／項目		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出題内容別の傾向	地理的分野	世界の姿		●	●
		日本の姿	●	●	●
		世界各地の人々の生活と環境	●	●	●
		アジア州	●	●	●
		ヨーロッパ州、アフリカ州		●	●
		北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州	●	●	●
		地域調査の手法			
		日本の自然、人口	●	●	●
		日本の資源・産業、世界との結びつき	●	●	●
		九州地方、中国・四国地方	●	●	●
		近畿地方、中部地方	●	●	●
		関東地方、東北地方、北海道地方	●	●	●
	歴史的分野	文明のおこりと日本		●	
		古代国家の歩み	●		●
		中世社会の展開	●	●	●
		ヨーロッパ人との出会いと全国統一		●	
		近世社会の発展	●	●	●
		近代ヨーロッパと日本の開国		●	●
		近代日本の歩み	●	●	●
		二度の世界大戦と日本	●	●	●
		現代の日本と世界	●	●	●
	公民的分野	現代社会と私たちの生活			
		個人の尊重と日本国憲法	●	●	●
		現代の民主政治、国会	●	●	
		内閣・裁判所、三権分立			●
		地方自治	●	●	
		消費生活と流通・生産、市場経済と金融	●	●	●
		財政、国民生活と福祉	●		●
		地球社会と私たち	●	●	●
出題形式別の傾向	分野統合	●	●	●	●
	大問数	6	6	6	6
	小問数	35	35	35	36
	記号解答	17	18	17	20
	用語記述	12	10	12	10
	文章記述	6	7	6	6
	作業・作図				